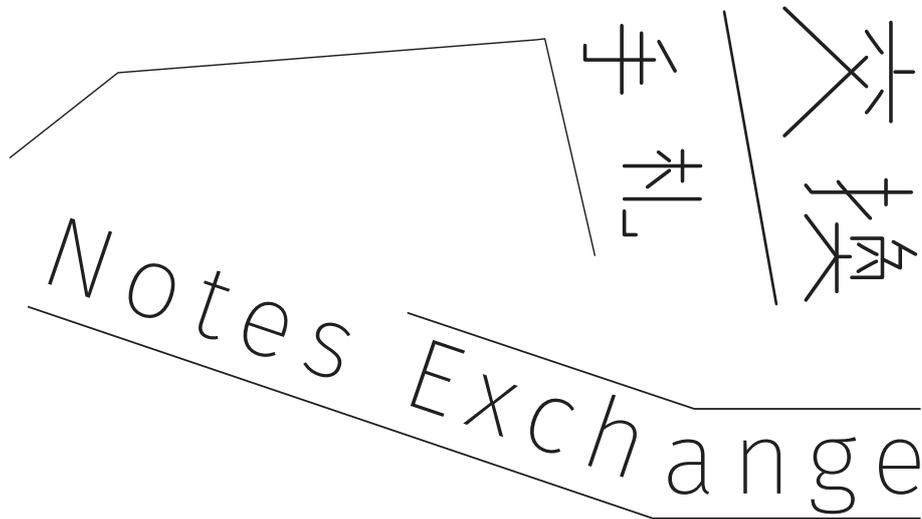


日本と台湾
——
さらに深く
より強く
つながり、ひらく



第七劇場 × Shakespeare's Wild Sisters Group
日台国際共同プロジェクト
Notes Exchange vol.3 最終年事業概要 (2018年度)

プロジェクトおよび公演に関するお問い合わせ：第七劇場

5142113 三重県津市美里町三郷2104 tel: 070-1613-7711 (担当直通・10～18時)
mail: info@dainanagekijo.org website: http://dainanagekijo.org

東京・東京芸術祭2018へのお問い合わせ

1510051 東京都渋谷区千駄ヶ谷4-18-1 国立能楽堂内 公益社団法人 国際演劇協会日本センター気付
tel: 03-6388-0119 (平日: 10:00-18:00)

三重・主催劇場へのお問い合わせ：三重県文化会館

5140061 三重県津市一身田上津部田1234 tel: 059-233-1100 (事業課)

金沢・主催劇場へのお問い合わせ：金沢21世紀美術館

9208509 石川県金沢市広坂1-2-1 tel: 076-220-2800

台湾側へのお問い合わせ：

Shakespeare's Wild Sisters Group (莎士比亞的妹妹們的劇團)
mail: swsg95@gmail.com 台北市中正區重慶南路一段88號3樓



vol.1 日本公演を終えて日台出演者全員での写真
(三重県文化会館小ホールにて)



vol.1 日本公演終演時のカーテンコール
(三重県文化会館小ホールにて)



vol.1 フライヤー (表)

プロジェクト主旨

この台湾と日本の国際共同プロジェクトがはじまるきっかけとなったのは、第七劇場の台湾公演（2014年）でした。それまで第七劇場は韓国、ドイツ、フランスと海外公演を重ねてきましたが、東京から三重県津市美里町に拠点を移したその年に、国立台北芸術大学の舞台芸術フェスティバルに招待され、チャーホフ原作『かもめ』を上演しました。この作品が台湾のプロデューサーの目に留まり、第七劇場と台湾・台北を拠点に世界的に活動するカンパニー“Shakespeare's Wild Sisters Group”との国際共同プロジェクトを提案してくださいました。

ただ、ひとつの劇団が国境を越えてプロジェクトを進めるためには、予算や会場確保以外にも、多くの困難を伴います。しかし三重県文化会館が舞台芸術による国際交流の意義や価値に賛同し、三重県文化会館プロデュースとして実現の運びとなりました。

台湾側の提案は「3年間のプロジェクト」という長期計画でした。近年文化に特に注力している台湾の文化行政の姿勢とともに、プロデューサーの熱意に賛同し、3年間のプロジェクトをともに歩むことになりました。1年では深まりきらない交流や、作品の質を、3年という長期スパンで計画することで、より親密な文化交流と、国際共同に対する多角的なチャレンジ、そして良質な作品製作が可能になり、日台の次世代アーティストにおける新しい国際共同の扉を開けられると私たちは考えています。

作品製作における基本的な態勢は、両地域の俳優や、照明・音響・舞台美術などのスタッフを交換=Exchangeして、良質で他文化を活かしたクリエイションをおこないます。そして台湾と日本の両地域でその作品を上演し、クリエイションを通じた創作チーム内の創造交流や、上演をもって観客を通じたお互いの地域の表現文化のより良い紹介とプレゼンテーションを目指します。

Notes Exchange

第七劇場 × Shakespeare's Wild Sisters Group
日台国際共同プロジェクト
Notes Exchange vol.3 最終年事業概要

プロジェクトのこれまで（1年目・2016年度）

原作：ドストエフスキー 美術：鳴海康平（第七劇場）

台湾作品 Shakespeare's Wild Sisters Group

地下室の手記

構成・演出：王嘉明（Chia-Ming WANG）

出演：Fa、王世緯、王安琪、張耀仁
+ 佐直由佳子（第七劇場）

舞台監督：鄧湘庭 / 照明：王天宏
音響：劉韋志 / 衣装：靳萍萍
演出アシスタント：盧琳
プロデューサー：新田 幸生

日本作品 第七劇場

罪と罰

構成・演出：鳴海康平

出演：小菅紘史、伊吹卓光 / 八木光太郎、堀井和也
+ 蔡亘晏（Hana TSAI）
（Shakespeare's Wild Sisters Group）

照明：島田雄峰（Lighting Staff Ten-Holes）
音響：平岡希樹（現場サイド）

ツアー日程

- 日本公演 平成28年度 文化庁劇場・音楽堂等活性化事業

会場：MIE CENTER FOR THE ARTS 三重県総合文化センター

三重県文化会館 小ホール

会期：2016年11月 26日（土）・27日（日）

主催：三重県文化会館 [指定管理者（公財）三重県文化振興事業団]
共催：レディオキューブFM三重

助成：文化庁

製作：三重県文化会館 第七劇場 Shakespeare's Wild Sisters Group

- 台湾公演 新舞台藝術節 2016 公式プログラム

会場：台南文化中心 原生劇場（台南市）

会期：2016年11月 18～20日

主催：中國信託文教基金會
莎士比亞の妹妹們的劇團 第七劇場
助成：台北市文化局 國藝會
財團法人建弘文教基金會 信源企業股份有限公司
財團法人許遠東先生暨夫人紀念基金會
公益財団法人交流協会

指導単位：文化部 文化部 新舞台藝術節 2016 FESTIVAL



「罪と罰」 ↓ ↑ 「地下室の手記」



台湾側演出家による日本滞在ワークショップ



鈴木英敬三重県知事への表敬訪問



日本側演出家による台湾滞在ワークショップ



前葉泰幸津市長のワークショップ訪問

Notes Exchange

第七劇場 × Shakespeare's Wild Sisters Group
日台国際共同プロジェクト
Notes Exchange vol.3 最終年事業概要

プロジェクトのこれまで (2年目・2017年度)

『1984』 原作：ジョージ・オーウェル / 第七劇場 × Shakespeare's Wild Sisters Group

戯曲 = 名作翻案
×
演出 = 日台共同演出
×
俳優 = 日台俳優競演

プロジェクト2年目となる2017年は、SF小説の金字塔「1984」を王氏が翻案し、王・鳴海の共同演出で舞台化。出演は台湾と日本の両カンパニーの俳優に加え、世界的活動を続ける日本随一の県立劇場「静岡県舞台芸術センター (SPAC)」でさまざまな作品に出演する俳優・永井健二をゲストに迎えます。

翻案：王嘉明 演出：王嘉明・鳴海康平
出演：Fa、王世緯、王安琪、張耀仁、蔡巨晏
佐直由佳子、菊原真結、小菅紘史、伊吹卓光
/ 永井健二 (SPAC)

舞台監督：鄧湘庭
照明：王天宏・島田雄峰 音響：劉韋志・平岡希樹
衣装：斬萍萍 プロデューサー：新田幸生

ツアー日程

- 日本公演 平成29年度 文化庁劇場・音楽堂等活性化事業

会場：MIE CENTER FOR THE ARTS 三重県総合文化センター

三重県文化会館 小ホール (約150席)

会期：2017年11月 25日 (土) ・26日 (日)

主催：三重県文化会館 [指定管理者 (公財) 三重県文化振興事業団]

共催：レディオキューブFM三重

助成：文化庁

製作：三重県文化会館 第七劇場

Shakespeare's Wild Sisters Group

- 台湾公演

会場：台北市 水源劇場 (約300席)

会期：2017年12月 29～31日

主催：莎士比亞的妹妹們的劇團 第七劇場

助成：國藝會 財團法人建弘文教基金會 YMF

信源企業股份有限公司 廣達電子股份有限公司

財團法人許遠東先生夫人紀念基金會 讀人館 廣藝基金會

指導単位：文化部



プロジェクト・フィナーレ (3年目・2018年度)

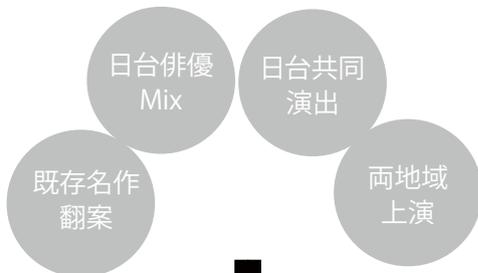
舞台 珈琲時光

企画協力: 侯 孝賢 脚本: 王 嘉明 演出: 王 嘉明・鳴海康平

1年目 (2016)



2年目 (2017)



フィナーレ 3年目 (2018)

さまざまなチャレンジを経た集大成



プロジェクト3年目、最終年度となる2018年度は、2年目のチャレンジを発展させます。

小津安二郎生誕100年を記念して、2004年に日本製作・台湾監督で発表された映画「珈琲時光」にヒントを得て、全く新しい舞台作品を生み出します。

監督・脚本の侯 孝賢(ホウ・シャオシェン)は王氏の友人であり、企画について全面協力を快諾。

小津へのオマージュが新たな日台交感を通じた舞台作品として結実します。

演出は王・鳴海の共同演出。美術や衣装、音響・照明などのテクニカルスタッフは日台混成チームで編成。

出演は、日本側からは、第七劇場の俳優のほか、静岡県舞台芸術センター (SPAC) の俳優1名、金沢の俳優1名を加え、台湾と日本の俳優が共演。

台湾公演に加え日本国内でツアーを実施し、当プロジェクトの成果をより広くプレゼンテーションし、提供する機会を拡大。国際共同の新しいモデルケースの提示を目指します。

舞台 珈琲時光

企画協力: 侯 孝賢

脚本: 王 嘉明

演出: 王 嘉明・鳴海 康平

出演: Fa、朱安麗 (台湾公演のみ)、圈圈
佐直由佳子、小菅紘史、木母千尋
菊原真結、三浦真樹
鈴木真理子 (SPAC)
西本浩明 (演芸列車「東西本線」)

舞台監督: 鄧 湘庭

照明: 王 天宏・島田 雄峰

音響: 劉 韋志・平岡 希樹

衣装: 靳 萍萍

プロデューサー: 新田 幸生

※本舞台は、映画「珈琲時光」にオマージュを捧げた作品ですが、映画の物語、登場人物とは関連ありません。

プロジェクト・フィナーレ上演日程（3年目・2018年度）



■ 東京公演



東京芸術祭2018 正式招待プログラム
会場：東京芸術劇場 シアターウエスト
日程：2018年10月24・25日（2ステージ）
共催：東京芸術祭組織委員会

■ 台湾公演

会場：新北市 雲門劇場 Cloud Gate Theater
日程：2018年12月1・2・6・7・8・9日
（2週末、計6ステージ）
共催：雲門劇場 Cloud Gate Theater

■ 三重公演



会場：三重県文化会館 小ホール
日程：2019年2月10・11日（3ステージ）
主催：三重県文化会館、第七劇場

■ 金沢公演



会場：金沢21世紀美術館 シアター21
日程：2019年2月16・17日（3ステージ）
主催：金沢21世紀美術館、第七劇場

助成：国家文化藝術基金會 台北市文化局
雲門文化藝術基金會 日本台湾交流協会

製作：三重県文化会館、金沢21世紀美術館、
第七劇場、Shakespeare's Wild Sisters Group



Shakespeare's Wild Sisters Group (莎士比亞的妹妹們的劇團)

1995年夏に設立。「シェイクスピアの妹たち」の意である劇団名は、イギリスの作家ヴァージニア・ウルフの『自分だけの部屋 (A room of One's Own)』の登場人物が由来。独創的な美学とスタイルを模索し続け、毎年実験的な新作の発表と国内外との文化交流を行う。1997年以降、多くの国・都市に招かれ、これまでに香港、マカオ、北京、青島、釜山、東京、ベルリン、シンガポール、神戸、パリ、アヴィニオンなどで公演。

<http://www.swsg95.com.tw/>



第七劇場

1999年、演出家・鳴海康平を中心に設立。主に既成戯曲を上演し、言葉の物語のみに頼らず舞台美術や俳優の身体とともに多層的に作用する空間的なドラマが評価される。国内外のフェスティバルなどに招待され、これまで国内20都市、海外4ヶ国6都市（フランス・ドイツ・韓国・台湾）で作品を上演。2014年、東京から三重県津市美里町に拠点を移設し、倉庫を改装した新劇場 Théâtre de Bellevilleのレジデントカンパニーとなる。 <http://dainanagekijo.org>



王嘉明 (ワン・ジャミン Chia-Ming WANG)

20年以上、先進的な演劇を製作し続け、常に伝統と革新、大衆性と前衛性を融合させた作品を発表。その作品は核心を失うことなく、広く市民に享受されている。表現の限界を拡張するだけでなく、総合芸術としての演劇の定義を豊かにするために、ジャンルを越境してアーティストと協働。演劇に加えて、広告CMのアシスタントや、ミュージックビデオ、ファッションショーのディレクター、高雄ワールドゲーム2009のオープニングアクトのディレクターを務める。台新芸術賞（2001）など受賞多数。



鳴海 康平

第七劇場 代表・演出家。Théâtre de Belleville 芸術監督。1979年北海道紋別市生まれ。三重県津市在住。早稲田大学在籍中の1999年に劇団を設立。「風景」によるドラマを舞台作品として構成。国境を越えることができるプロダクションをポリシーに製作し、ストーリーや言語だけに頼らないドラマ性が海外で高く評価される。ポーラ美術振興財団在外研修員（フランス・2012年）として1年間渡仏し活動。帰国後2013年に日仏協働作品『三人姉妹』を新国立劇場にて上演。



新田 幸生

日本生まれ台湾育ちの独立プロデューサー、国立台北芸術大学大学院アートマネジメント修士課程卒業。フリーの舞台制作者として、演劇とダンスの舞台制作やフェスティバルの制作に関わり、台北を中心に日本やアジアとの国際交流に深めるプロジェクトを数多く手がける。